

# JTU Stories

公益社団法人日本トライアスロン連合 <JTU マガジン Web版> 2018年度 Vol.5

トライアスロン 2018

the home of  
triathlon



## シーズンの掉尾を飾るワールドカップ

2018年を振り返り、来年を占う

2020年の東京オリンピックを2年後に控え、選手強化もいよいよ本番を迎える。

そのなか、2018年最後のビッグレースとして、ITUトライアスロンワールドカップ(2018/宮崎)が開催された。

今年の集大成とも言えるこのレースで、日本選手はどう戦ったのか。あわせて、このオフシーズンと来年の動向を占う。

# エンタテインメントで 世界をもっと カラフルに

## いつの時代でも感動体験を 創造し続ける企業であるために

人間にしかできない感動という、かけがえのない体験。まだ世界の誰も知らない感動体験で、世界中をアッとさせたい。そして、あらゆる人を前向きにし、社会に元気をあふれさせ、この地球上にさまざまなしあわせを広げていく。私たち総合エンタテインメント企業・セガサミーグループはそのような存在であり続けるために、これからも邁進してまいります。



# 自国のワールドカップで ポイントの獲得を

今年の掉尾を飾るITUトライアスロンワールドカップ(2018/宮崎)が、11月10日(土)に宮崎県宮崎市のみやざき臨海公園、一ツ葉有料道路、フェニックス・シーガイア・リゾート周辺特設コースで開催された。

このレースは、現在日本で開催される唯一のワールドカップであり今年で3回目の開催となる。地の利もあることから、日本選手にとっては少しでも良い順位を得て、多くのITUポイントを稼ぎたいところ。一昨年は上田藍(ペリエ・グリーンタワー・ブリヂストン・稲毛インター/千葉)が優勝して1年を締めくくったことも記憶に新しい。

今回女子は、ITUトップランカーで10月に行われた日本選手権優勝の高橋侑子(富士通/東京)、ここ宮崎の優勝経験者でオリンピック3回出場の

上田、ベテランの井出樹里(スポーツクラブNAS/神奈川)、今年成長株の岸本新菜(福井県スポーツ協会・稲毛インター/福井)、そして蔵本葵(東京ヴェルディ/東京)、武友綾巳(ボーマレーシング・トラソール/福岡)、久保埜南(トーションパートナーズ・チームケンズ/山梨)、杉原有紀(流通経済大学)の8名が出場。

男子は、今年のNTTジャパンランキング1位の古谷純平(三井住友海上/東京)、頭角を現してきた佐藤錬(福井県スポーツ協会/福井)、今年前半好調だった小田倉真(三井住友海上/東京)、日本選手権初優勝の北條巧(日本体育大学)、細田雄一(博慈会/東京)、石塚祥吾(日本食研/愛媛)、大谷遼太郎(セガサミーホールディングス/埼玉)の7名がスタートラインに立った。

いつものプール、ロード。ただ繰り返す。  
今日も、明日も。  
一本でも多く泳いだか? 走ったか?  
昨日の自分より、速くなったか?  
ゴールは向こうからは、やってこない。  
だから近づく。一步一步。

挑戦は、美しい。



©Satoshi TAKASAKI/JTU

立ちどまらない保険。

**MS&AD** 三井住友海上

# クックが2連覇、高橋は10位に

水温は20度を超え、気温が10度台後半という絶好のコンディションのなかスタートした女子のレースは、昨年のこのレースの覇者であるサマー・クック（アメリカ）がトップでスイムを終えた。その後、ビットーリア・ロペス（ブラジル）に続いて高橋が3番手でトランジションに駆け込む。そして最初にバイクへ飛び出したロペスを高橋とクックが追った。

クックとチェルシー・バーンズ（アメリカ）、高橋を含む12名の第1集団はスピードを上げて逃げ、井出、岸本、蔵本、久保埜が入る第2集団を引き離す。スイムで遅れた上田と杉原は第3集団に。バイク後半で、第3集団は第2集団に追いついた。

最初にトランジションに戻ってきたのは、エリカ・アッカーランド（アメリカ）。高橋も直後に付けて、トップでランへと飛び出した。第1集団の最後でトランジションに入ったクックだったが、最初の500mでトップに立つとバーンズも追従し、お互いに引き

合う展開。結局この二人が最終周回まで併走し、最後はクックが僚友を振り切って昨年に引き続き2連勝。2位にはバーンズ、3位はミリアム・カシージャス・ガルシア（スペイン）が入った。

レース前に「最善を尽くして優勝したい」と語った言葉を現実のものとしたクックはレース後、「バーンズ選手はトレーニングパートナー。声を掛け合って支え合いながら、いいレースができた」と振り返った。記者会見で、「昨年5位。今年は表彰台を狙う」と言った高橋は2分32秒差の10位。「ランに入って足が動かなくなったが全力は出した。来年に向けてのステップになる」とコメントした。

その他、上田がランラップ3位の走りを見せて高橋に続く11位となった。スイムで遅れなければ、一昨年同様表彰台が期待できるだけに、来年の巻き返しを望みたい。



Eat Well, Live Well.

**Ajinomoto**  
AJINOMOTO



周りのやつらは、  
余裕の無い表情をしている。  
さては飲んでないな。



運動中に動きながらのアミノ酸補給

アミノバイタル®  
アミノショット®

後半まで粘れるエネルギーを

アミノバイタル®  
アミノショット®  
パーフェクトエネルギー®

速攻のアミノ酸補給で明日のためのリカバーを

アミノバイタル®  
GOLDゼリードリンク

運動中に失われるたんぱく質。それを補う唯一の栄養素。

トライアスロン。水。アミノ酸。

**amino**  
**VITAL**  
アミノバイタル



## 復調小田倉が 11位に食い込む

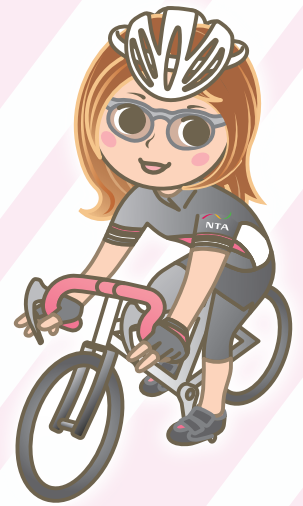
男子レースのスィムトップは、トレント・ソープ（ニュージーランド）。オーレリアン・ラファエル（フランス）、ジャン・ルーカ・ポツァッティ（イタリア）の後、4番手は古谷。直後を小田倉、石塚、佐藤と続き、北條はその後ろ。やや遅れて、細田と大谷の順番。

バイクでは、古谷が積極的に引く第1集団の8名が先頭交代を繰り返して先行する。小田倉、石塚、佐藤が入る第2集団は、バイク中盤で第1集団に追いついてリードパックを形成。その後ろの集団には、北條と細田が後を追う。

バイクが終盤にかかる、古谷、佐藤、ラファエルの3名が逃げを決め、集団から逃げて最初にラン

ランで飛び出した古谷だったが、1周目に昨年2位で「今年は優勝したい」と記者会見で語ったビセンテ・エルナンデス（スペイン）がトップを奪うと、リードを広げる。結局エルナンデスがそのまま逃げ切り初優勝となった。2位はエリ・ヘミング（アメリカ）、3位はデアアン・スタテフ（イタリア）。レース後エルナンデスは、「バイクで力をセーブできて、ランで一気に前に出た」と勝因を語った。

小田倉が日本選手のなかで一人31分台のタイムでランを走りきり、11位に入った。今年後半不調を訴えていた小田倉は、「良い体調で臨めたレース。ランで海外選手についていけないイメージがあったが、払拭できた」と安堵の様子だった。



サイクリング、ゴルフ、SUP<sup>※1</sup> etc...  
女子が中心のスポーツフェス!!



あなたのアンチストレスに、  
イチバンでありたい。

# スポーツ ×キレイ ×旅

スポーツを楽しむなら  
スタイルやお洒落にも  
ちゃんとこだわりたい、  
そんな女子のための  
素敵なイベントを  
全国で開催いたします。  
旅をしながら各地の  
キレイな空気や景色、  
そこで味わう食やスイーツなども  
一緒に楽しみましょう。

※1 SUP=スタンドアップ・パドル・ボード

たびーら

全ての女子を応援する  
日本旅行のマスコット。  
イベントにも  
駆けつけます。

日本旅行女子旅ナビゲーター

# たびーら



旅することは一番のストレス解消方法。たびーらは  
「アンチストレス」をテーマに女性のための様々な旅をご提案いたします。



# オフには 2年後を目指して精進を

2018年のシーズンもこのITUトライアスロンワールドカップ(2018/宮崎)で一段落し、多くの主力選手にとっては、年明け3月のITU世界トライアスロンシリーズ(2019/アブダビ)が2019年のシーズンの幕開けとなる。その間、選手たちは練習に励むことになるだろう。

今回日本人女子トップだった高橋は、宮崎のレース後、「来年はもっと強くなって帰ってきたい。2020年の東京オリンピックが近づいているなか、実力はまだまだだと思う。でも少しずつでもステップアップしていることは実感しているので、これからも頑張っていきたい」と語った。

男子で今年一番の成果を残したと言える北條は、「ランで31分台のタイムを出さなければ世界と戦うことはできない」と日本選手権や宮崎ワールドカップの記者会見で言っていたが、北條はまだトライアスロ

ンのランでは31分台で走ってはいない。ランを31分台で走るには、ラン10kmだけのタイムは30分台でなければ達成できないだろう。このオフの練習に期待したい。

一方で今回復調の兆しを見せた小田倉は、「まだ世界のトライアスロンとの差は大きい。東京オリンピックまで1年半あるので、一日一日を大切に一步一步でも詰めていく」とレース後に力強く語った。

「アジア競技大会からITU世界トライアスロンシリーズグランドファイナル、日本選手権と戦ってきて、今年は早めにオフに入る」と、日本選手権後に語った佐藤優香(トーションパートナーズ、NTT東日本・NTT西日本、チームケンズ/山梨)は、宮崎を欠場。年明けから東京オリンピックへの再スタートを切ることになる。





# CHASE YOUR DREAM

TEAM **BRIDGESTONE**



Chase Your Dream オリンピック・パラリンピック特設サイト  
[www.bridgestone.co.jp/chaseyourdream/](http://www.bridgestone.co.jp/chaseyourdream/)

株式会社ブリヂストン

【お客様相談室】フリーダイヤル0120-39-2936  
受付時間：月～金（祝祭日は除く）9：00～17：00  
[www.bridgestone.co.jp](http://www.bridgestone.co.jp)

**BRIDGESTONE**

あなたと、つぎの景色へ



## 今年の収穫は、 岸本と北條の成長

今年1年を通して見ると、6月10日に行われたNTT ASTCアジアカップ(2018/大阪城)2位、6月24日に行われたNTT ASTCアジアU23選手権(2018/蒲郡)1位、8月4日に行われたASTCアジアカップ(2018/アルマトイ)1位の成績の岸本が、女子では目立った成長を見せた。

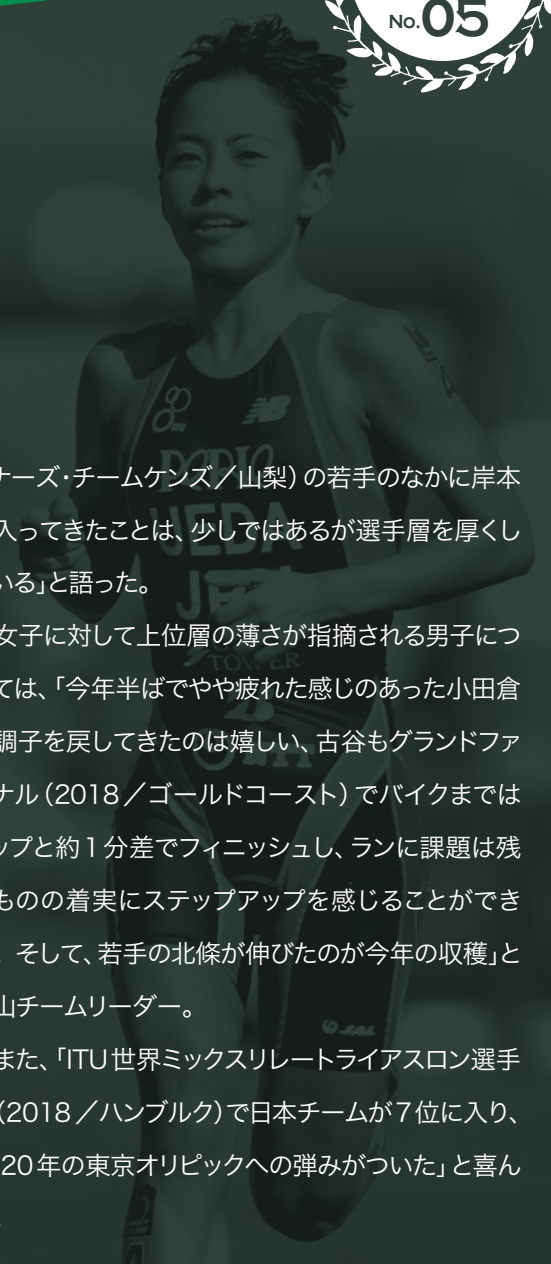
男子では、ASTCアジアカップ3勝、アジアU23選手権、そして日本選手権で優勝した北條の成長が目覚ましい。

今年の日本選手の結果を中山俊行オリンピック対策チームリーダーは、「女子では、高橋、佐藤が安定した力を見せたが、後一步の踏ん張りがほしいところ。上田、井出はベテランらしい粘りを見せてくれたが、故障の影響もあり思うような結果につながらなかった。そのなか、久保埜、瀬賀楓佳(トーションパー

トナース・チームケッズ/山梨)の若手のなかに岸本が入ってきたことは、少しではあるが選手層を厚くしている」と語った。

女子に対して上位層の薄さが指摘される男子については、「今年半ばでやや疲れた感じのあった小田倉が調子を戻してきたのは嬉しい、古谷もグランドファイナル(2018/ゴールドコースト)でバイクまではトップと約1分差でフィニッシュし、ランに課題は残すものの着実にステップアップを感じることができた。そして、若手の北條が伸びたのが今年の収穫」と中山チームリーダー。

また、「ITU世界ミックスリレートライアスロン選手権(2018/ハンブルク)で日本チームが7位に入り、2020年の東京オリンピックへの弾みがついた」と喜んだ。





---

# HUB

RESEARCH | SCIENCE | REALITY

**STYLE BIKE, Inc.** TEL : 075-255-1157

---

<http://www.stylebike.co.jp/>

Email : [shop@stylebike.co.jp](mailto:shop@stylebike.co.jp)

# エイジグループ 選手権で24名の チャンピオン

ITUワールドカップ(2018/宮崎)の翌日には、第1回となる日本エイジグループトライアスロン選手権(2018/宮崎)が開催された。この大会は、年間を通して全国26カ所で開催されるJTUエイジグループランキングで上位成績を残した男女合わせて102名の選手によって競われ、まさにエイジグループの日本一を決するに相応しい大会となった。

この栄えある第1回の各年代優勝者には、来年スイス・ローザンヌで行われるITU世界トライアスロンエイジグループ選手権(2019/ローザンヌ)への公費派遣の権利が与えられる。

ここ数年、大きな盛り上がりを見せてきたエイジグループの戦いも、日本選手権としての開催でさらなる参加者の増加が見込まれる。2019年も同会場で10月27日(日)に開催される予定だ。

## JTU第1回日本エイジグループ選手権

日時：2018年11月11日(日)

場所：宮崎県みやざき臨海公園、一ツ葉有料道路、  
フェニックス・シーガイア・リゾート周辺特設コース

競技距離：51.5km(スイム1.5km/バイク40km/ラン10km)

### 女子優勝

24歳以下：川合みなみ(学連)

25-29歳：河野典子(大阪)

30-34歳：山内麻代(大阪)

35-39歳：平下心(大阪)

40-44歳：重成かおり(大阪)

45-49歳：松本華奈(鳥根)

50-54歳：小原千絵(鳥取)

55-59歳：福田恵美子(富山)

60-64歳：青木みどり(東京)

65-69歳：福田百合子(熊本)

70-74歳：松田喜美子(大阪)

### 男子優勝

24歳以下：井辺弘貴(福岡)

25-29歳：フェラーリ・シモン(大阪)

30-34歳：杉山太一(静岡)

35-39歳：駒野悠太(神奈川)

40-44歳：松丸真幸(茨城)

45-49歳：山本淳一(千葉)

50-54歳：高橋泰夫(岡山)

55-59歳：沢田秀二(宮城)

60-64歳：市川和彦(東京)

65-69歳：小宅錬(秋田)

70-74歳：大吉秀則(茨城)

75-79歳：岩本俊信(東京)

80歳以上：田中國宣(熊本)

JTU  
Stories  
2018

No. 05

